



大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER
No.13

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 大阪公立大学 大学史資料室 協創研究センター・大学 史編纂研究所 公開日: 2024-11-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/0002001366

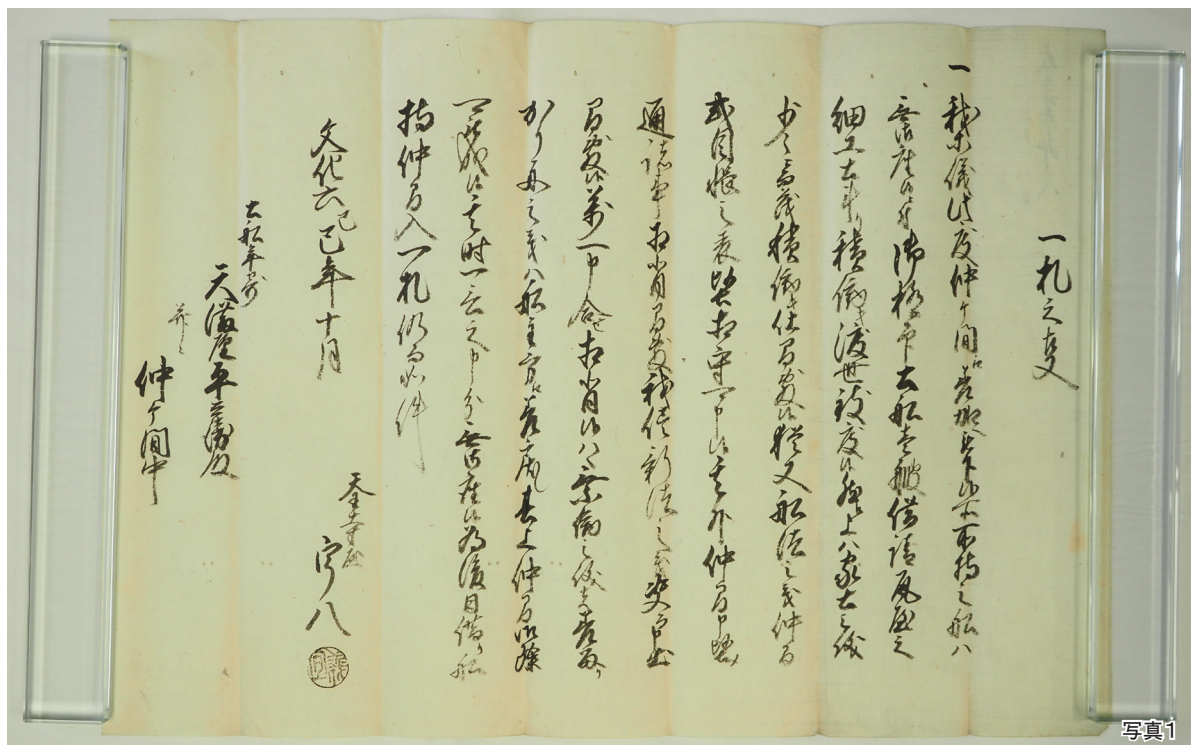


写真1：文化6（1809）年10月「一札之事」御極印土船1艘を借り受けて土船渡世を始めることになった天王寺屋宇八が土船仲間の年寄天満屋平兵衛と仲間中に差し出した仲間入り証文。

近世大坂土船仲間の古文書－水の都の船・人・土砂－

大学の知を発掘！
035

大阪公立大学杉本図書館（学術情報総合センター）には、大阪商科大学や大阪市の時代には収集されてきた近世古文書が数多く収蔵されている。それらの多くは、学術情報総合センターや文学研究科、大学史資料室などの関係者によって目録作成や撮影などの整理が進められ、大阪市立大学の「OCU 古文書データベース」で公開・活用されてきた。また、その一部は、大阪市立大学140周年記念展示室にも展示されている（レプリカ展示）。ただし史料点数が膨大であるため、いまだ整理が行われていないものや、整理がなされたものの公開にまでは至っていない史料群も多い。文学研究科日本史研究室では、それら未整理の古文書の整理を継続するとともに、研究科の特設サイトにおいて大学所蔵史料群の目録と史料写真、研究動向をまとめた解説文などを公開する準備を進めている。そうした作業のなかから、間もなく公開する予定の「大坂三郷河筋土船仲間文書」（以下「土船仲間文書」）を紹介したい。

「大坂三郷河筋土船仲間文書」には454点もの古文書

が含まれる。「土船」とは土木や瓦の原料となる商品としての「土」を市中へ運ぶための川船であり（図1）、その船の所持者たちが「土船仲間」という仲間集団をつくっていた。『大阪市史』第5巻に収録されている近世中期に編纂された『諸川船要用留』という史料に土船についての記述が見られる。それによると、近世大坂の土船には「古土船」「新土船」「在土船」の三種類があり、古土船26艘は寛永15（1638）年に大坂の川中土御用をつとめることを条件に幕府から御極印（幕府が公認したことを示す焼き印）を打つことを認められ、新土船24艘は元禄12（1699）年に堀江新地の繁盛のために許可された船であった。在土船11艘は、宝永元（1704）年12月に摂州西成郡中在家村・今在家村が大坂の銅細工・鍋釜鋳物師に鋳型の材料としての土を販売するために山土を運ぶ船の公認を願い出て認められたものである。以上の三種類の土船はそれぞれの成立背景や時期は異なるものの、いずれも土の運搬と売り捌きを生業とする集団で、「土船仲間文書」には古土船・新土船の史料が残されている。

「土船仲間文書」454点の作成年代は、概ね18世紀初



大阪公立大学・高専基金へのご寄附のお願い
お申込み時に「特定プロジェクトのために：⑨-3」を選択してください。
⑨-3：1号館ミュージアム構想のために

【お問い合わせ】 渉外企画課 TEL: 06-6605-3415
<https://www.omu.ac.jp/fund/>

編集発行
大阪公立大学 大学史資料室
協創研究センター・大学史編纂研究所
杉本キャンパス学術情報総合センター6階（大学史資料室）
Tel : 06-6605-3371 E-mail : gr-gakj-archives@omu.ac.jp

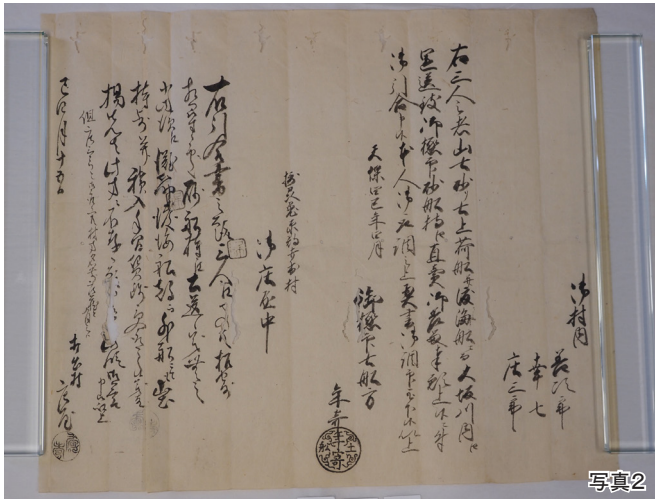


写真2

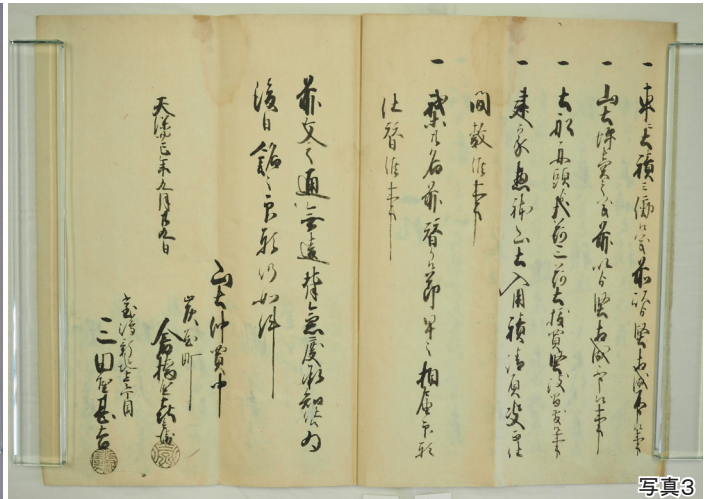


写真3

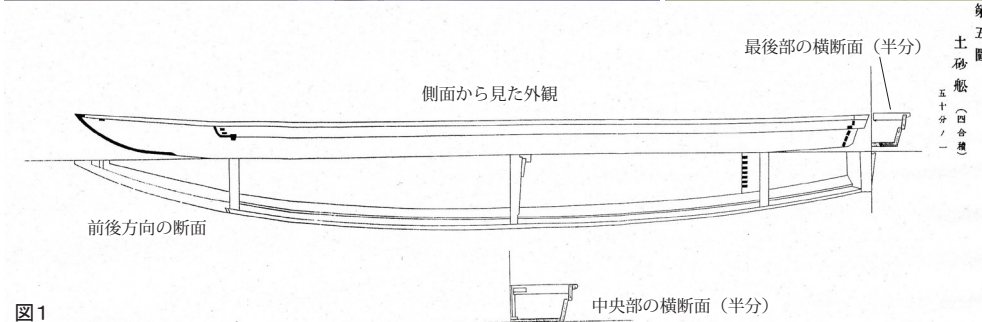


図1

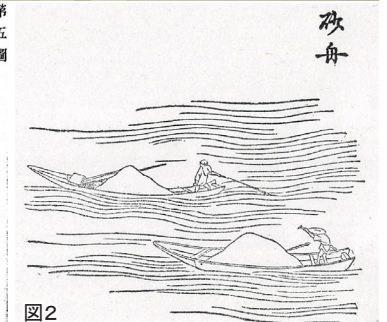


図2

写真2：天保4年の引合書 上荷船・渡海船を用いて大坂の砂船持へ山土・砂利土を直売することの差し止めを出願するにあたり作成されたもの
 写真3：天保4年9月「山土仲買印形帳」「山土仲買」らが守るべき取り決めを記し、仲買全員（「山土仲買中」）が押印した帳面。 図1：土船「大阪市史」第5巻より転載・加工。図2：砂船 金沢兼光編集『和漢船用集』巻第5、文政10（1827）年。巖松堂書店復刻版（1944年）より転載。

期から19世紀中期までである。土船仲間が仲間内で作成した規定書や、土船の買得・譲渡の際に作成された証書類からは、土の運搬方法や土船仲間の重層的な構成をうかがうことができる。例えば、船主から船を借りて土船を経営する「借船」の者が見られ（写真1）、実際に船に乗る船乗りは船主・借主に雇われて働いていた。

また、近世大坂の堀川で活動する船の中には、川底に堆積した土砂を取り去る浚渫を担い、除去した砂などを商品として輸送する「砂船」の仲間も存在した（図2）。堀川の開削によって造成された都市大坂にとって、浚渫は欠かせないものであった。土船仲間はそのような砂船仲間との間で、土砂の運搬独占をめぐる幾度も争論を繰り返していた。「土船仲間文書」には、争論のなかで作成された訴状や返答書なども数多く残っている。商品となる川底の土砂は「土」なのか「砂」なのか、両者にとり譲れない問題であったことが読み取れる。18世紀中期になると、土船仲間はこうした砂船主や陸上輸送で土の売買を行う「陸荷土屋」の一部を「山土仲買」とし

て編成し、土船仲間を通じて彼らの店へ土を売ようになるが、本史料群には土船仲間が主導するかたちで作成された仲買名前帳（「印形帳」写真3）も確認できる（エストラーダ・リース「近世巨大都市大坂における土船仲間と土砂流通」2024年大阪公立大学大学院文学研究科提出修士論文）。以上のような争論からは、土船と併存した様々な川船集団との関係もうかがえ、今後の研究の進展が期待される。

なお、近世大坂の土船・土船仲間に関する史料としては、本史料群のほかにも大阪府立中之島図書館に所蔵されている「土船仲間記録」全27点が知られている。「土船仲間記録」には、「元土船名前帳」「新土船持名前帳」「土積越船名前帳」など仲間構成員の名前を記録した帳面類が残っている。本学の「土船仲間文書」には他の集団との関係や仲間内部の取締りなどを示す史料が多く含まれているため、双方を分析することによって、より立体的な土船仲間の実態が復元できると考えられる。

（文学研究科 齊藤紘子

・文学研究科博士後期課程 エストラーダ・リース）



資料室だより

◆大学史資料室では「大阪公立大学 大学史資料室 NEWS LETTER」を発行しています。大阪公立大学の貴重な学術資料や大学の歴史を紹介いたします。◆この「NEWS LETTER」は、大阪市立大学「140周年展+大学史資料館（大学博物館）設立準備 NEWS LETTER」の後継紙であり、「大学の知を発掘！」の番号を引き継いでいます。両紙とも大阪公立大学 大学史資料室のホームページ、図書館ホームページの機関リポジトリで公開しています。

大学史資料室からのお願い

現在、学内にある資料の所蔵調査を行なっています。学術資料そのもの、研究の過程で残された資料類、実験装置や器具類、実習に用いられた教材や作品などを、大学史にかかわる資料とともに探しています。候補となる資料がありましたらご一報ください。

→杉本キャンパス学術情報総合センター6階 大学史資料室

Tel：06-6605-3371